

総合計画体系	政策名	Ⅱ 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》	施策主管課	市民環境生活課
			施策統括課長	安食 恵治
	施策名	12 環境衛生の充実	関係課	下水道課,自治振興課,事業管理課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		A) 市民 B) 廃棄物(ごみ) C) 廃棄物(し尿)	A 人口			人	実績	42,428	41,917	41,159	
		B ごみの排出量	t	実績	9,438	9,033	9,100(見込)				
		C し尿処理量	t	実績	8,556	7,672	7,020(見込)				
				見込			7,723	7,337	6,970	6,622	
目的	②意図(どのような状態にするのか)	成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		A) 市民1人あたりのごみ排出量を減量と再資源化を行う。 B) 適正に処理する。	A 市民1人あたりのごみ排出量			g/日	実績	589	571	580(見込)	
		B 資源化率	%	実績	53.1	53.9	51.4(見込)				
		C 不法投棄の通報件数	件	実績	33	53	32				
				目標		(600)	590	580	570	560	
				目標		(53)	54.0	54.0	55.0	55.0	
				目標		(30)	29	28	27	25	
				実績							
				目標							
	成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	A-1) 市民1人あたりのごみ排出量が減れば、ゴミの減量化につながるかと考えた。 A-2) ごみの再資源化は、再資源化量、再資源化率で判断できると考えた。 B) 不法投棄は、ごみが適正に処理されていない状態であると考えた。									
	成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)	A) 一部事務組合と市民環境生活課(北部の古紙・古着)で把握 B) 市民環境生活課で把握(実績値については、島根県環境生活部廃棄物対策課が公表する「一般廃棄物処理の現況」を参照)									
	目標設定とその根拠 (基本計画策定時)	A) 既に住民意識は高く高水準であるが、今後も3Rを推進していき排出量抑制を図ることにより、毎年度10g減少させていくことを目標とする。 B) 成行値は同程度での推移を予測する。目標値は古紙や古着回収を拡充させることなどにより、増加させることを目指す。 C) 今後ごみ分別などの規制が強化される見込みであり、成行値は増加していくことを予測する。目標値は監視の強化などに引き続き取り組むことで、毎年減少させることを目指す。									

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① ゴミの減量と適正処理の推進	市民	ゴミを減量する。	市民1人あたりのごみ排出量	g/日	実績	589	571	580(見込)			
② ゴミのリサイクルの推進	市民	ゴミのリサイクルを進める。	資源化量・資源化率	t %	実績	5,012 53.1	4,866 53.9	4,680(見込) 51.4(見込)			
③ し尿の適正処理	し尿	適正に処理する。	処理能力	kl/日	実績	90	90	90			
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
①	●3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進やマイバック運動等により、ごみ排出量の削減やごみの分別に努める。	●3Rを啓発・推進し、古紙・古着及び割り箸回収などによる再資源化を図る。 ●汚泥・ごみ処理施設及びし尿汚泥処理施設を整備し、施設の効率的利用を推進する。
②	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○人口減少、高齢化によりごみ排出量も減少することが予測される。また、レジ袋が有料化されることがごみ減量に繋がる。○ごみ排出量の縮減には、これまで取り組んできたコンポストや生ごみ処理機購入への補助事業の効果も現れている。○下水道整備が進み普及率の向上に伴い、し尿処理量は減少していく。	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○自治会等から、ごみ集積施設設置の補助制度や古着の回収頻度を増やすことを求められている。 ○消費者問題研究会及び市議会からマイバック運動を推進するよう求められている。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 □ 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 □ 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 □ 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 □ 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	背景・要因 ○市民1人あたりのごみ排出量は、県平均(919g、22年度)に比べかなり少ない(美郷町531g、吉賀町538g、邑南町560gに次ぎ県内4位)。 ○ごみ資源化率は、県平均(23.8%、22年度)の中で、雲南市は群を抜いている(1位雲南市53.9%、2位美郷町39.1%、3位川本町38.5%)。これはRDF方式で固形燃料として再資源化していることが大きく起因している。

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《12 環境衛生の充実》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○ごみの排出量は18年度から22年度にかけ、年当たり2.6~4.7%の減少傾向を見せていたが、23年度は横ばいの状態となった。これに伴い、市民1人が1日に排出するごみの量も9g程度増加することとなった。 ○ごみの資源化率は、若干下がったが前年度とほぼ同レベルであった。 ○不法投棄通報件数は、前年度に比べ21件減少した。防止看板の設置や地域住民による不法投棄物の撤去ボランティア活動等が広がりを見せ、地域住民の不法投棄に対する監視意識の高揚の現われと考えられる。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○ごみの排出量、ごみの資源化率、不法投棄通報件数とも、ほぼ目標通りの成果となった。
基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① ゴみの減量と適正処理の推進	・可燃ごみ、不燃ごみの排出量はともに減少傾向にあったが、23年度は横ばいに転じた。しかしながら、県内では引き続き高水準にあり、市民の意識向上が図られているものと考えられる。 ・固形燃料(RDF)の品質向上のため、可燃ごみの一部分別方法等の啓発を事務組合により積極的に行った。
② ゴミのリサイクルの推進	・リサイクル推進事業により、古紙・古着・割り箸等の回収が継続的に行われており、リサイクルに大きく貢献している。 ・古着の回収回数(雲南エネルギーセンター管内)を年2回から年6回に変更したことにより、利便性の向上が図られた。
③ し尿の適正処理	・雲南広域連合で適正にし尿処理を行った。 ・下水道の整備や接続への啓発活動により下水道接続率が向上し、し尿処理量は減少した。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○引き続き、ゴミの減量化、再資源化、適正処理に努めていく必要がある。	○引き続き、ゴミの減量化、再資源化、適正処理に努めていく。
基本事業	① ゴミの減量と適正処理の推進	○24年度からレジ袋の有料化がスタートしたことを機に、さらにゴミの減量化が図られるよう啓発活動を継続的に行っていく。 ○不法投棄を防止するため、パトロールを強化していく。 ○一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(24年度見直し)に沿い、事業を実施していく。
	② ゴミのリサイクルの推進	○古紙・古着・割り箸、ペットボトル等の回収体制の整備を検討していく。 ○制度等の周知を徹底していく。
	③ し尿の適正処理	○引き続き、し尿を適正に処理していく。 ○下水道や浄化槽から発生する汚泥を含めた一体的な汚泥処理・再資源化を図るための具体的な検討を行っていく。
	④	
	⑤	